様式3

令和7年度　香南市学校評価報告書

香南市立野市幼稚園

経営理念	【教育目標】　のいちっ子　つながるこころ　のびゆく子 【経営目標】『幼児一人一人を大切にし、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。 〈子ども像〉　〇じょうぶな　からだ　　〇きれいな　こころ　　〇かがやく　ひとみ 〈幼稚園像〉　〇意欲的に遊ぶ子どもの育つ幼稚園　〇自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園　〇友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切にする幼稚園 〇豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どものいる幼稚園 〈保育者像〉　〇子どもが自分でやってみようとする意欲を大切にして自立していく力を育てる保育者　〇一人一人の子どもの心に寄り添いながら援助する保育者　〇豊かな環境作りに努め、子どもらしく思いきり楽しく遊ぶ生活を保障する保育者　〇豊かな人間性と指導力の向上に努める保育者

中期経営目標	今年度の重点目標	評価項目	自己評価 達成状況	評価	学校関係者評価 考察	評価	改善策等
☆保育・教育活動の充実	幼児が夢中になって遊び、豊かな学びにつながる保育の展開	子ども保育者もやってみたいと思う内容の充実	① 【幼児理解】 幼児と共に遊び、一人一人の内面を理解する	・幼児が楽しんでいることや、やってみようとしていることに対して、幼児と同じ目線で遊ぶことを楽しんできた。一緒に遊ぶ中で保育者が指示や意見を言うのではなく、共に遊びながら思ったり考えたりしていることを引き出していったことで、何を経験しどのような事に気づいているのかを探り内面理解につなげた。 ・幼児の気持ちの変容や困難なことに向かっていこうとする過程を追い、その姿を考察し記録に残していったが、幼児の内面を理解することは簡単なことではない。保育者一人の見方や捉え方に偏らないよう取り組みを継続していく必要がある。	B	・日々子どもの姿を記録に残し、そこから内面理解につなげる取り組みはできていた。 ・成果指標を幼児ではなく保育者で評価することで成果指標が上がっていたのではないか。指標の付け方の難しさがある。	B	子ども一人一人の育ちやその子が今求めているものが何なのかを言動や表情から読み取り、関わることを意識していく。加えて、思いをありのままに表現する子ばかりではなく、思いを自分からなかなか伝えられない子、本当の気持ちを隠している子もいる。そのような子どもの気持ちも丁寧に汲み取ることを意識していく。
			② 【環境構成】 幼児が意欲的に遊びを進めるための環境づくりをする	・幼児の発達を理解するとともに、一人一人の育ちや経験の違いを踏まえた遊具や用具、素材を準備するように努めた。担任の中には幼児の発達を促すような用具や素材を研究し準備できていた。 ・繰り返し遊んだり試したりする姿が見られる一方で、遊びの内容により興味関心の幅が狭く保育者の誘いにのらなかったり、素材の扱い方や道具の使い方に偏りが見られる幼児もいる。	B	・季節を意識した環境がタイミングよく準備できていた。 ・園が住宅地にあるため身近な所に自然が少ない。次年度は自然の中で直接体験ができるような工夫を取り入れるとよいのではないか。	A	幼児が遊びたくなるような環境にするために職員間で話し合いながら環境構成を見直し、幼児の好きな遊びが充実するように努める。加えて、話し合いの場を必要に応じて設定できるよう時間の工夫に努める。
			③ 【保育者の援助】 幼児が自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられる援助を行う	・幼児が話しやすい雰囲気を心がける中で、気持ちを共有したり、共感することを大事にしてきた。保育者との信頼関係が築けたことで幼児が思ったことや感じたことを保育者に話したい、聞いて欲しいという思いが育ってきている。年中年長児になると保育者から友達に自分の思いを自分なりの言葉で伝えられるようになってきている。職員の自己評価では90%以上の子どもが言葉や態度で伝えるようになったと感じている。 ・年長児では、クラスでの振り返りや学年全体の活動の中で自分の思いを伝える機会を多くもち、周囲の友達から認められる場を意図的に作ることで自信がつくよう支えていった。小学生との交流活動後においても全体の場で感想を伝えたい気持ちが育っている。	B	全体の場で自分の思いを伝えようとする姿が多くなってきていることは評価できる。	A	幼児が自分の思いを素直に表現する喜びを感じられるように、保育者はポジティブな言葉がけを意識する。
◆職員の育成・資質向上や運営	互いに協力し組織づくりと意欲的に学ぶ保育者の育成	危機管理に対する全の職員の意識の高まりと共通理解	① 【安全指導】 幼児の安全対応力を高めるための指導	・生活や遊びの場面において、怪我につながる原因と結果を繰り返し伝えたり、時には集団で考えたりして注意喚起してきた。年少児と年中児は園内の決まりが分かり、年長児は危険を予測して友達に注意喚起することもあり、身を守る行動ができるようになってきた。 ・防災研修に参加した職員を中心に引き渡し訓練の内容を見直した。実際の訓練では、うまくいかなかった原因や課題を洗い出し、改善策を立てて次の内容に落とし込み訓練を実施した。職員の幼児を守ろうとする意識の高さを感じる。	B	安全指導の難しさがあるが、幼児が何事にもチャレンジできるような場を大切にするとともに、目を離さず事故は防いでいってほしい。また、小さな怪我をした時には、幼児がどう対応したら良かったのか分かるように指導を望む。	B	保育者による安全管理や衛生管理、幼児への指導、避難訓練を積み重ねる中で、職員一人一人が意識を高くもち、反省を次につなげ、より確実に安全面への指導と避難ができるようにしていく。どの立場の職員においても自ら関わっていく姿勢をもちたい。
			② 【衛生管理】 感染予防や健康の維持を可能にするための衛生管理	・一年を通して気温と室温の調整と換気、幼児の衣服の調整、消毒、手洗い、咳エチケットなど季節に応じた対応と指導を行ってきた。特に感染予防の基本である手洗いは、年少児から手の洗い方を細かく指導したことで丁寧に洗う習慣が身に付いている。 ・薬品等の管理においては、子どもの手の届かない所に保管するよう改善できた。 ・職員により衛生管理に対する意識の違いがある。「園舎内の清掃・消毒」規定を折々にチェックする項目を入れていたが掃除のルーティーンが日常化していることもあり規定を確認することが抜けがちである。	B	手洗い、清掃、消毒などの衛生管理において、個人の意識や理解度、経験によって差が生まれる課題に対し、マニュアルや手順書など仕組みを構築するとよい。	B	保育室内の清潔が保たれているのはもちろんのこと、保育室内だけでなく共有部分への美化意識も高めていく。また、割り当てられた清掃担当の場所があっても、互いに配慮し合う気持ちをもちたい。
◎地域に開かれた園づくり	保護者の安心を得ることや地域に開かれた園づくりに努め、信頼される幼稚園をめざす	園の取組、子どもの学びや発達が伝わるような情報発信を行う	① 【保護者対応】 保護者と対話しながら子どもの様子を伝える	・担任の時差勤務や降園後の業務、会議や研修等で保護者と直接対話する時間の確保が難しい現状がある。保護者の迎えの時間により対話できる家庭とそうでない家庭に差が生じるため、対応に偏りがないように意識していくことが必要である。 ・保護者アンケートの設問「特に園に期待することは何ですか？」では、『子育て支援（預かり保育、相談のできる場）の充実など家庭との連携に力を入れる』に25%の保護者が選択していた。選択した理由の記述から、幼児の日中の様子を知りたい思いが読み取れる。	C	保護者の就労と保育者の勤務時間を考慮し、直接対話する機会を設けることが難しい時は、対面でなくても子どもの姿を記入したものを渡すなどの工夫があるとよい。	B	・保護者に対しては、その日あったことだけを伝えるのではなく、育つ過程が分かるように直接や間接的(メモや子どもからの伝達)に伝える工夫に努める。
			② 【情報発信】 子どもの育ちや経験を伝える便りの発刊	・どのクラスも月に２～３回の便りを発刊した。幼児がしている遊びを知らせるだけにならないよう保育者の思いやどのような経験を重ねているか写真を用いて分かりやすく伝える工夫に努めた。カラー印刷になったことで様子が伝わりやすくなり、保護者はよく見てくれるようになった。 ・ドキュメンテーションでは、写真に注目が集まりやすく、幼児がどこに心動かしどのような感情体験をしているか伝わりづらいもどかしさを感じる。また、クラスにより発刊に差があった。	B	園からの情報発信として、便りだけでなく、子どもから聞くことも多くある。おたより作成については、あまり負担がかかりすぎないように、ポイントとなることを発信するなど方法を工夫してほしい。	B	・職員の勤務時間が様々であるが、情報や連絡の共有が滞ることのないよう早朝から預かり保育まで一日を通して職員が連携し、保育にあたれる体制づくりを整える。

【評価基準】Ａ：十分満足　　Ｂ：おおむね満足　　Ｃ：もう少し努力すべき　　Ｄ：大いに努力が必要